

Sustainability Report 2014

不二製油グループ サステナビリティレポート

二つとない、をつくる。
 不二製油

二つとない、をつくる。

油脂、製菓・製パン素材、大豆たん白の三つの事業領域において、
私たちはつねに「人マネはしない」という創業の精神を大切に、
お客様とともにさまざまな「食」を世界に提供してまいりました。
「人マネはしない」発想の先に、二つとない技術、製品、提案が生まれ、
さらにその先に、感動と笑顔が広がっていく…
「二つとない、をつくる」というマインドは、「二つとないパートナーシップ」を育み、
「食」の創造を通して、健康で豊かな生活に貢献していく志でもあるのです。

FUJI WAY

企業理念

「食」の創造を通して、
健康で豊かな生活に貢献します。

経営理念

- 経営の前提
安全・品質・環境を最優先する。
- 経営基本方針
顧客への貢献を果し不断の発展を図る
創造の精神をもって常に革新に挑む
自己啓発を熾^{さか}んにし人格の向上を目指す

コーポレートメッセージ

二つとない、をつくる。不二製油

写真：パーム油

不二製油がヤシ油と共に独自の進路を切り拓く
きっかけとなった南方系原料油脂。現在パーム
油は世界の植物油脂生産量で No.1 です。不二製
油では分別技術などで様々な融点・物性の油脂
製品を開発し世界に展開しています。

不二製油グループの概要

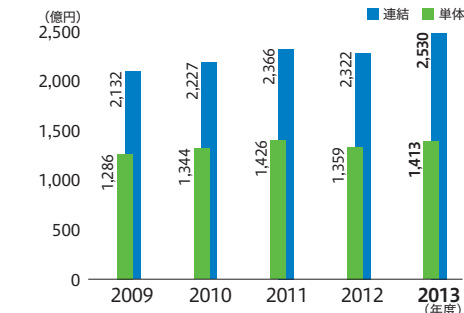
植物性の原料を主原料に、健康とおいしさを実現するための食品素材を開発、
生産、販売している不二製油グループ。「油脂／製菓・製パン素材／大豆たん白」
の三事業を軸に、ニッチ・スペシャル・グローバルに事業を展開し、多様化する
市場ニーズにお応えしています。

会社概要

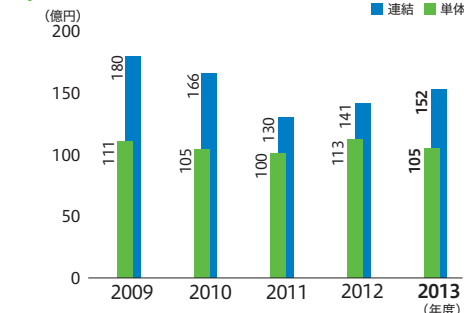
商 号：不二製油株式会社
本社所在地：大阪府泉佐野市住吉町1番地
設 立：1950年(昭和25年)10月9日
資 本 金：13,208百万円(2014年3月末現在)
代 表 者：代表取締役会長 海老原 善隆 代表取締役社長 清水 洋史
従 業 員 数：単体 1,171名 連結 4,408名(2014年3月末現在)
子会社・関連会社：連結子会社 27社 持分法適用関連会社 4社(2014年3月末現在)

主な経営指標

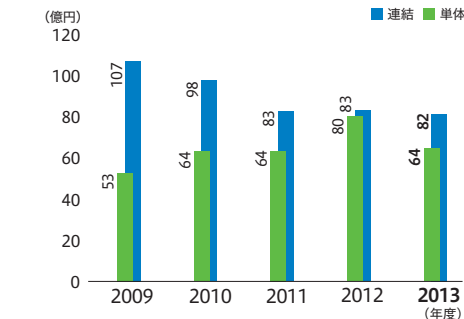
売上高



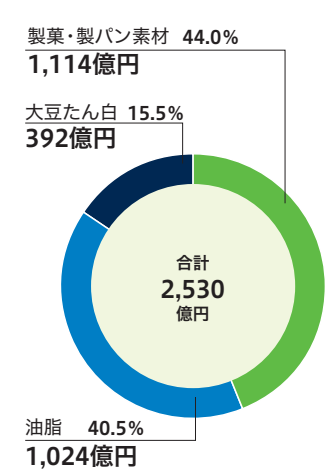
営業利益



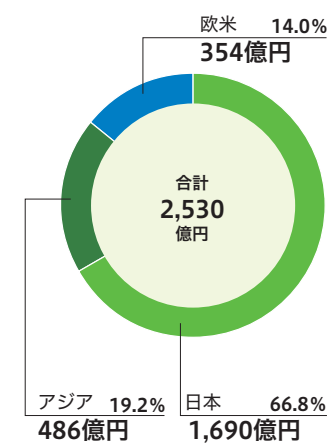
当期純利益



事業別売上高構成比



地域別売上高構成比



原料と事業領域

不二製油グループは植物性原料を使って
3つの事業領域で社会に貢献しています。

- 油脂事業
- 製菓・製パン素材事業
- 大豆たん白事業



INDEX

- 01 FUJI WAY
- 02 不二製油グループの概要

社長インタビュー

- 03 2030年の「ありたい姿」に向けて
取り組む「ルネサンス不二 2016」と
サステナブル経営

不二製油グループ新中期経営計画 「ルネサンス不二 2016」 (2014~2016)

- 05 生活者の健康を支援・サポートする
グローバル企業を目指して

サステナブル経営の推進

- 11 CSRマネジメント
- 13 社会的価値の創出:健康・栄養
- 17 社会的価値の創出:食資源
- 19 環境
- 23 サステナブル調達
- 27 人づくり

持続的成長を支える体制

- 29 食の安全・安心・品質
- 31 ガバナンス、リスクマネジメント、
地域社会との共生
- 33 第三者意見

2030年の「ありたい姿」に向けて取り組む 「ルネサンス不二 2016」と持続可能な 「ルネサンス不二 2016」とサステナブル経営

2014年度より新しい中期経営計画「ルネサンス不二 2016」がスタートしました。“不二”の原点に戻り、“新しい不二”を創るため、「ありたい姿」を描きながら、それを具体的施策とし、実効性のある活動を展開していくことを目指しています。清水洋史社長がその新しい計画を軸に、不二製油グループのサステナブル経営について語ります。

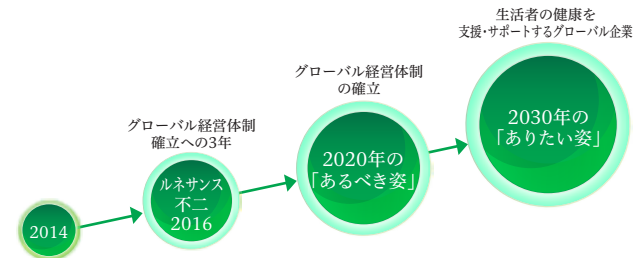
「ありたい姿」を示し具体的施策で遂行

2013年度に終えた前中期経営計画「Global & Quality 2013」を振り返ってください。

前中計では、目標とした経営の基本方針「グローバル経営」「技術経営」「サステナブル経営」の3本柱は思い描いていたように実現できたとはいえ、内容が必ずしも全社員に深く理解されていなかったと反省しています。こうありたい、こうすべきという成長モデルを描ききれていなかったことが原因ではないかと考えています。

新中期経営計画「ルネサンス不二 2016」にはどのような思いを込めていますか。

前回掲げた3大方針はそのまま継続しますが、計画のあり方は大きく変わります。内容のある計画にするために、まず目標とすべき将来像を示すこととし、「2030年ありたい姿」「2020年あるべき姿」を私たちが目指す姿として打ち出しました。ありたい姿とは「生活者の健康を支援・サポートするグローバル企業」です。人の健康をサポートするためには、人が生きている環境、例えば原材料を含めた地球環境を考えなければならない。地球が健康でなくて、人だ



けが健康になるというのはありえないからです。だから地球環境のことも考え、原料、動植物のことを考えることが、結局は、人の健康を考えることにつながるのです。

そのために求められる行動は何でしょうか？

「ルネサンス不二 2016」は、日本や世界の未来はどうなっているかも想像しながら、当社の今後3年を示すわけですが、そうすると現状とは大きなギャップが生じてきます。そのギャップを埋めるのがイノベーションです。それは技術に限らず、原料調達、生産、販売、人事組織・体制を含めた5分野で取り組まなくてはなりません。それには2つの軸で進めるべきです。1つは業務改革や事業改革で従来製品のコストダウンにつながるイノベーション。もう1つは、過去からの延長線上ではない発想から生まれるイノベーションです。

人口は現在70億ですが、2050年には90億になると予想されています。人口が増えると、農地の確保が難しくなる恐れがあります。その場合、資源効率の高い大豆は注目されるはずで、この点からも大豆は食糧問題の解決に大きく貢献することができます。

大豆を普及させることは大きな社会的貢献になりますね。

大豆を使った食品を広めることは当社の使命と考えています。大豆は昔から豆腐、納豆、醤油などに利用されてきました。近年になって豆乳が普及したものの、風味的にはもう一歩という状況が続いてきました。食べていただかねば使命を果たすことにはなりません。そこで着目したのが、当社が蓄積してきた分離技術です。この技術を使って大豆本来のおいしい風味を活かした素材を作るUSS製法を開発したことにより、豆乳クリームや低脂肪豆乳が誕生し、利用される分野が広がっています。また、世界の食料需要の増大に対応するためにアフリカで大豆を育てるプロジェクトにも参画しています。

大豆はGMO(遺伝子組み換え作物)問題が取り沙汰されています。

当社は一切使用していません。食品素材を提供する企業として、



不二製油株式会社
代表取締役社長

清水洋史

消費者が心配する原料を扱ったり、その原料を使った製品を提供したりするわけにはいきません。しかし、米国で作られる大豆の9割はGMO大豆です。とはいえ、世界的に食料が不足して、それを

補えるのがGMO大豆という時代が来るかもしれませんので、その動向について研究は続けていきます。

持続可能な調達は企業存続に不可欠

食品中間素材メーカーとして、持続可能な調達も大きな課題です。

当社は油脂ではパーム油、ヤシ油など植物油脂を扱っています。生産・流通の状況はそれぞれ異なり、状況変化は常起こるので、的確に対応していかなければなりません。供給元を広げておくとともに、持続可能な管理ができている産地および商社と信頼関係を構築していくことが重要です。

消費者目線を重視した技術経営を追求

技術経営はどのように展開していくのでしょうか。

お客様が当社を選んでいただく最大の理由は技術です。今後も当社が技術の会社であるという方向は揺るぎません。しかし、消費者目線は欠かせないと思います。実際買い物をされるお客様が何を求めているのかを理解しなければ、B to Bの営業活動で説得力のある提案ができないため、消費者(C)を意識した「B to B for C」志向を持たねばならないと社員に発信し続けています。

また当社の技術経営は、単なる研究部門の技術だけでなく、生産技術や営業による顧客企業へのソリューション提案も含めた技術となります。特に重要なことは常に差別化できる技術を開発すること、そして顧客の立場に立った技術を開発することです。

「ルネサンス不二 2016」では人づくりを強調していますね。

どのような目標も「人」なくしては達成できません。人は人によ

環境経営について、今後の取り組みはどのように考えていますか？

当社の環境活動は2011年6月に策定した「不二グループ環境ビジョン2020」が基本になります(P19参照)。ここで示された目標には、ハードルが高くて難しいテーマも掲げられていますが、そのギャップを解消するには、新中期経営計画で示したように、過去からの延長線上で考えるのではなく、イノベーションを起こすことが重要です。「不二グループ環境ビジョン2020」は期限まで5～6年と迫っているため、イノベーションを起こすことで実現を目指します。

て育てられ、環境によって育てられます。その人のために何をしてあげられるかを考えることから人間関係が生まれます。下を思いやり、活性化を促すことが上司の第一の仕事です。

1960年に定めた旧経営基本方針には「不変の革新を断行する」、1980年に定めた経営基本方針には「創造の精神をもって常に革新に挑む」とうたっています。これは長年、大切にしてきた当社のDNAです。このDNAを今後も活かして挑戦し続ける人材を育成していきます。当社の社員は潜在的な可能性を秘めていますから、大いに期待しています。

サステナブル経営について抱負を聞かせてください。

前回の中期経営計画「Global & Quality 2013」の3大方針を継承し、必ず実行します。当社の事業そのものがサステナブルな要素が強いので、全社員がより認識を深めた取り組みを実行し、社会からより信頼される企業になっていかなければならないと考えています。

生活者の健康を支援・サポートするグローバル企業を目指して 不二製油グループ新中期経営計画

「2030年 ありたい姿」「2020年 あるべき姿」を描き、新中期経営計画「ルネサンス不二 2016」はその実現への活動計画と位置づけています。
不二製油グループが本来持っているものを復活・再生し、さらに進化させる意味を込めて「ルネサンス不二 2016」をスローガンとしました。

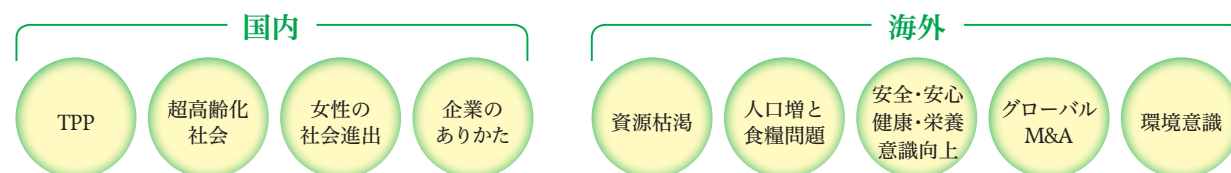
新中期経営計画スローガン ルネサンス不二 2016

■ 創業の精神 ■ 開拓者精神 ■ 顧客第一主義 社会への貢献 ■ 不断の革新を断行する

新中期経営計画の前提となる基本的な考え方

事業環境の変化

社会環境、経済環境、市場環境が大きく変化する中で、どの事業分野・エリアに経営資源を投入するのかに加え、企業の存在意義、あり方、企業姿勢が非常に重要であると認識しています。



ステークホルダーからの期待

経済的な成長を伴いつつ、社会的な価値（健康・栄養／おいしさ／食の信頼／環境）を創出するための、技術イノベーションが求められていると認識しています。



経営基本姿勢

私たちの技術とお客様が必要とされる何かをつなぐために、「ものづくり」と「ことづくり」を合わせて、お客様にその価値をお伝えするよう「価値づくり」を行い、常にお客様の立場で考えるB to B for C、つまり、顧客企業様の先の消費者を見据えた取り組みを推進していきます。そしてそれらを支える「人材」を育成していきます。

「ものづくり」+「ことづくり」=「価値づくり」
B to B for C（顧客企業様の先の消費者を見据えた取引）
「人づくり」

不二製油の志

変わらぬ使命

- 顧客への貢献
- 安全・安心・品質
- 環境への配慮

無限の可能性への挑戦

- 技術革新
- コア事業で世界へ
- 生き活きと働く

「ルネサンス不二 2016」の概要

前ページに掲載した「事業環境の変化」、「ステークホルダーからの期待」、「経営基本姿勢」、「不二製油の志」などを踏まえ、「2030年のありたい姿」「2020年のあるべき姿」を描いており、新中期経営計画はその実現への活動計画と位置づけています。
「2030年のありたい姿」は、「生活者の健康を支援・サポートするグローバル企業となる」ことを目標としました。これまで培ってきたコア技術により、世界No.1、エリアNo.1のコアビジネスを保有し、世界で存在感を示す企業として、売上高5,000億円、営業利益率10%の達成を目指します。
大きな環境変化への対応をより明確にするために、毎年見直し・修正を行い、向こう3カ年を常に検証、作成するローリング方式を採用することとしました。2014年から始まる新中期経営計画はグローバル経営体制確立への3年としています。

私たちの目指す姿

グローバル経営、技術経営、
サステナブル経営の推進・加速により
15年で倍の規模を目指す

2030年の「ありたい姿」

生活者の健康を支援・サポートするグローバル企業

社会的価値の高い企業
世界のリーディングカンパニーへ
・売上高:5,000億円
・営業利益率:10%達成

2020年の「あるべき姿」

グローバルでの競争優位を獲得 グローバル経営体制が確立

・売上高:3,500億円
・営業利益率:8%達成

ルネサンス不二 2016 (2014～2016) の新中期経営計画

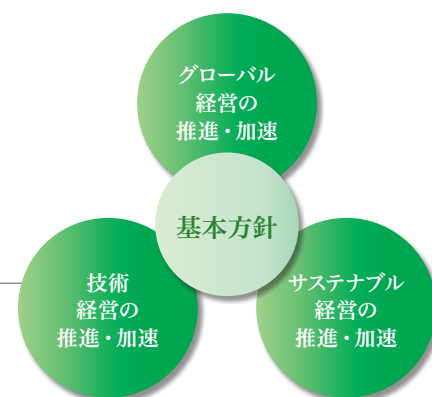
グローバル経営体制確立への3年

「不断の革新を断行」⇒
創業の精神、原点を見つめ直し、
コア事業の強化、新規事業を創出

新中期経営計画「ルネサンス不二 2016」基本方針

グローバル経営体制確立への3年

前中期経営計画の基本方針を継続、加速させ、具体的な施策をより推進します。



グローバル経営の推進・加速

日本
基幹市場として収益の維持・向上を図ります。特に成長の期待される中食市場への開拓を推進します。

海外
成長国・成長市場での事業展開を加速、M&A・アライアンスを積極的に活用します。

グローバル経営体制の確立
グループ経営の推進、グループシナジーの創出

エリア管理の強化と権限委譲
エリア統括会社、エリア代表会社への権限委譲とスピード経営の実現

グローバル人材の育成
グローバルに活躍できる人材の創出

技術経営の推進・加速

イノベーションを実現し、事業の競争優位を創出します。

コア技術の強化・徹底
分別・分離技術等のコア技術の強化
コスト競争力ある生産技術確立

知財戦略の強化
特許出願件数のトップクラス維持
ライセンスビジネスの展開

新規事業の創出
USS事業の確立、グローバル化
新素材の事業化推進

研究部門の活性化
国内外での研究所開設、アジア研究開発センターの新設
オープンイノベーションの強化／研究工程管理の強化
研究員の抜擢、ローテーション推進／働き方の変革

サステナブル経営の推進・加速

ステークホルダーの期待に応えるため、社会の課題解決に貢献します。

社会的価値の創出
健康・栄養、枯渇する食資源に配慮した製品開発

サステナブル調達
パーム、カカオの持続可能な調達推進

環境
不二グループ環境ビジョン2020の推進、省エネ、廃棄物削減

人づくり
人材開発、ダイバーシティの推進、活き活きとした企業風土の醸成

基本戦略

成長戦略、収益構造改革、経営基盤強化の3つが「ルネサンス不二2016」の基本戦略です。

成長戦略

マーケティング力の強化と、市場の成長が見込まれ、当社グループに優位性がある事業分野に経営資源を集中的に投下します。自律成長に加え、M & A、アライアンスも積極的に活用します。

セグメント戦略

【油脂事業】

- **チョコレート用油脂の拡販**
新興国（中南米、ロシア）チョコレート市場／原料調達の多様化とグループ間連携強化／シア脂によるヨーロッパ、ロシア、南米の拡販
- **パーム競争力強化**
コスト競争力の強化／農園との関係強化／生産体制再構築
- **コア技術による市場対応**
米国ノントランス対応／健康・呈味油脂技術

【製菓・製パン素材事業】

- **国内**
中食・外食向け調理用素材拡販／コンビニエンスストア等広域流通市場を開拓／ワンストップ営業体制の確立／ギフト市場ほか新チャネル市場攻略
- **海外**
拡大する新興国（中国、マレーシア、タイ、インド）およびアメリカ市場で製菓・製パン素材（マーガリン、チョコレート、クリーム）の拡販

【大豆たん白事業】

- **戦略製品の拡販**
USS製品（豆乳クリーム、低脂肪豆乳）のマーケティングを強化し、国内外で事業確立／重点製品拡販による事業拡大（粒状大豆たん白、冷凍豆腐）
- **事業構造改革**
海外：中国大豆サプライチェーン再構築
国内：大豆加工食品事業再構築／アライアンス戦略

海外戦略

アジアを中心とする新興国で製菓・製パン市場に対し、積極的な事業投資を行い、

製菓・製パン素材（マーガリン、チョコレート、クリームなど）の拡販を図ります。

チョコレート用油脂において、新興国でのチョコレート市場の成長を確実に取り込み、更に中南米・ロシアへの展開を加速します。

中国にて、大豆事業サプライチェーンの再構築を図ります。

収益構造改革

業務プロセス改革と事業構造改革を強力に推進します。

- 全ての業務プロセスで徹底した無駄の排除、生産性、効率性の向上を図ります。
- 事業の選択と集中を徹底し、生産拠点の統廃合・再編と、サプライチェーンの再構築を行います。

経営基盤強化

組織戦略・人材開発・CSR戦略の推進を図ります。

- 真のグローバル企業を目指し、経営体制・経営基盤を強化します。
- CSR経営をグローバルで推進し、CSRの浸透を図ります。

財務戦略

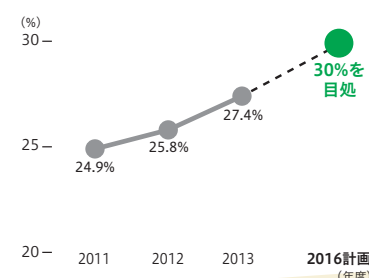
営業キャッシュフロー 安定的な成長により新中期経営計画3年間で500億円規模以上を創出。

成長投資 設備投資：3年間で480億円規模の設備投資を計画（国内・海外それぞれ240億円）。M&A等の事業投資は設備投資とは別枠設定し、戦略的に判断。

資金調達 D/Eレシオは50%以内を基準とするが、戦略投資の場合には50%超を許容。

株主還元 連結業績を勘案し、安定的かつ継続的な配当を基本とする。配当性向は2016年30%を目途とする。

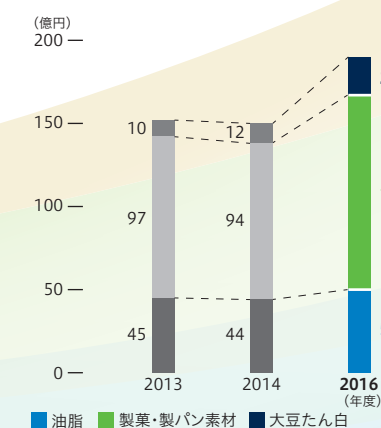
配当性向推移



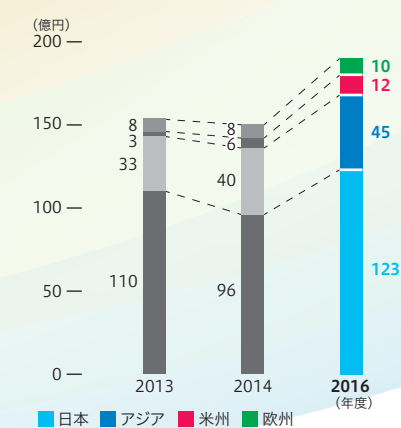
経営指標の目標値

	2013年度	2014年度	2016年度
売上高 (億円)	2,530	2,827	3,000
営業利益 (億円)	152	150	190
営業利益率 (%)	6.0	5.3	6.3
海外利益比率 (%)	29	36	35
ROE (%)	6.7	7.2	8.0
セグメント別営業利益 (億円)			
油脂	45	44	50
製菓・製パン素材	97	94	117
大豆たん白	10	12	23
エリア別営業利益 (億円)			
日本	110	96	123
アジア	33	40	45
米州	3	6	12
欧州	8	8	10

連結セグメント別営業利益計画



連結エリア別営業利益計画



新しい価値を創出し社会に貢献

持続可能な サステナブル経営の推進

社会環境が大きく変化する中、不二製油グループが貢献していくべき社会課題を見据え、「ルネサンス不二 2016」においてサステナブル経営を推進していきます。

社会の課題

人口の増加とともに「食」の課題が深刻になる一方で、「健康・栄養」課題も浮き彫りになってきました。高齢化や女性の社会進出、人権や労働環境、さらには地球環境問題など、このような課題に真摯に取り組むことが重要と認識しています。



- 世界的な高齢化の進展
- 栄養不良・栄養過剰人口の増加
- 食の安全・安心への不信



- 世界人口の増加による食糧需給のひっ迫
- 原料相場の上昇、高止まり



- 地球温暖化の深刻化
- 水不足、エネルギー不足の深刻化
- エネルギーコストの上昇



- 世界的な原料調達不安
- パーム、カカオにおける環境および人権問題の顕在化



- グローバル化に対応した人材の必要性
- 高齢者の就業機会の増加
- 女性の社会進出の拡大

サステナブル経営を推進

社会課題を踏まえ、ステークホルダーの期待に応え続けるため、当社グループでは、以下5つの項目を重要事項として取り組んでいきます。

健康・栄養

詳細はP13～P16をご覧ください

日本をはじめ世界各国で高齢化が進む一方、生活習慣病が先進国でも新興国でも大きな問題となっています。当社グループは独自の技術と製品で「健康・栄養」課題に取り組んでいます。

食資源

詳細はP17～P18をご覧ください

人口減少傾向にある日本とは裏腹に、世界では人口増加に伴う食資源の枯渇・不足問題は深刻な事態を迎えています。食品素材メーカーとして世界に貢献するための研究開発を進めています。

環境

詳細はP19～P22をご覧ください

当社グループは、重点的に取り組むべき環境保全活動とその目標を定めた長期ビジョン「不二グループ環境ビジョン2020」に基づき、グループ全体で環境保全活動を進めています。

サステナブル調達

詳細はP23～P26をご覧ください

当社グループ製品の主原料であるパーム、カカオの持続可能な調達を実現し、お客様に安定供給することは、素材メーカーとして重要な取り組みです。

人づくり

詳細はP27～P28をご覧ください

生活者視点での「ものづくり」「ことづくり」＝「価値づくり」を支える人材の採用・育成・登用を推進します。「ルネサンス不二 2016」においては、特にダイバーシティを推進し、人づくりをグローバルで取り組みます。

CSRマネジメント

不二製油グループは、CSRを、企業理念を具現化し、本業を通して社会の課題解決に貢献することと位置づけています。「CSRは経営そのものである」という考え方のもと、事業活動を通して社会からの期待や要望に応え、新しい価値を提供することで、社会と不二製油グループ双方の持続的な発展を目指しています。

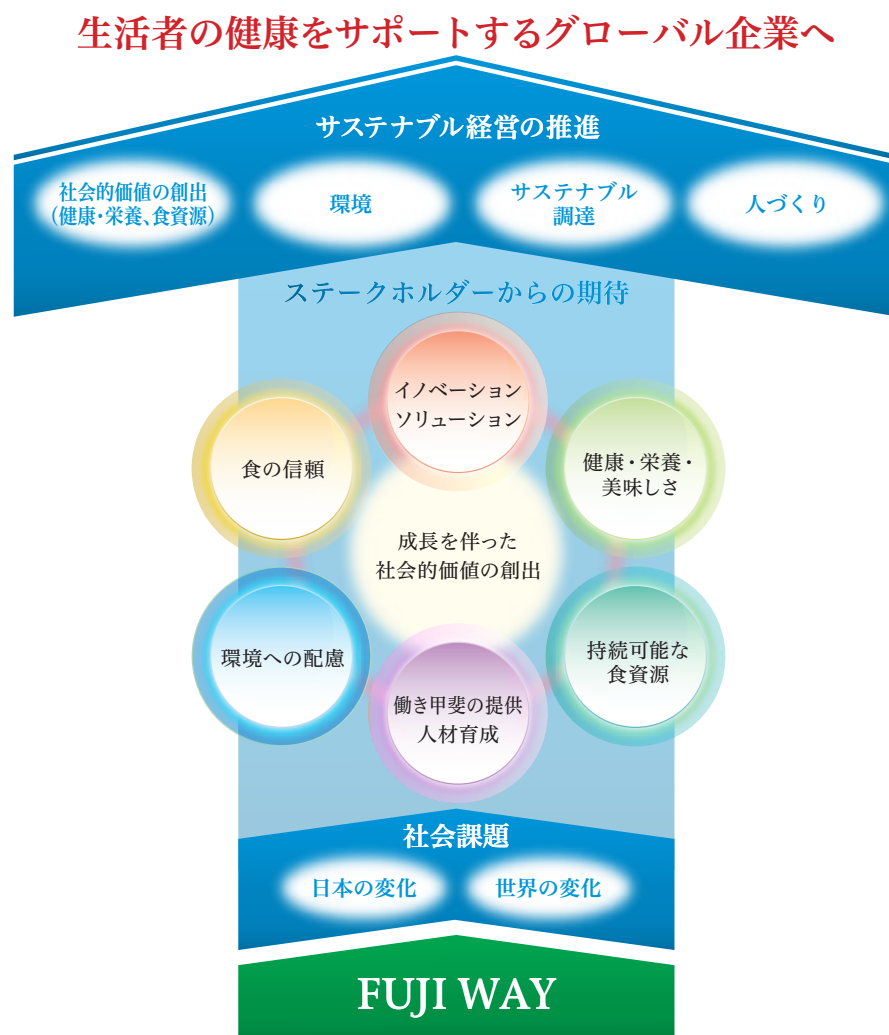
CSRビジョン

当社グループのCSRビジョンは、企業理念『食』の創造を通して、健康で豊かな生活に貢献します。』を実現することです。「人マネをしない」という創業の精神を胸に、食品素材メーカーとして価値ある製品・サービスを提供し、社会の皆様から信頼され、期待される「二つとない、をつくる。不二製油」を目指します。

考え方

新中期経営計画の基本方針「サステナブル経営の推進・加速」に向けて取り組んでいます。具体的には、社会的価値の創出、地球環境、サステナブル調達、人づくりの4項目を軸に、ステークホルダーからの期待に応え、生活者の健康をサポートするグローバル企業を目指します。本年度は、部長クラスで編成する「CSR実行委員会」の見直しを行い、4項目の責任者と共にサステナブル経営の実現に寄与していきます。

サステナブル経営の推進イメージ



CSR活動方針

I 「食の創造」に関する取り組み

1. 価値の創造
2. 食の安全・安心・品質
3. 持続可能な調達

II 「人材・人権」に関する取り組み

1. 人権
2. 人材

III 「環境」に関する取り組み

IV 「地域・社会」に関する取り組み

V 「CSR基盤」に関する取り組み

1. 企業理念の浸透とグループCSRマネジメント
2. コンプライアンスとリスクマネジメント
3. ステークホルダーとのコミュニケーション
4. CSRサプライチェーンマネジメント

※詳細はホームページをご覧ください。 <http://www.fujioil.co.jp/fujioil/approach/csr.html>

不二製油 主なグループ会社



CSRのグローバル展開

当社のグループ会社は国内7社、海外19社となり、事業拠点は中国、アジア、ヨーロッパ、アメリカ、アフリカなどグローバルに展開しています。各グループ会社は「CSRビジョン」や「サステナブル経営」などの考え方を共有し、各国の法令や文化を尊重するCSR活動を推進しています。

国連グローバル・コンパクトへの賛同

当社グループでは、2013年1月、国連グローバル・コンパクトに署名しました。当社グループは、人権・労働・環境・腐敗防止の4分野10原則を



践していくことで、自社グループのみならず社会全体の持続可能性向上に貢献していきます。

グローバルCSRリーダーネットワークの構築

CSRを国内外グループ会社にも浸透させ、推進することを目的に、国内外グ

ループ会社に「CSRリーダー」を設置し、グローバルCSRネットワークを構築しています。今年のレポートで取り上げたグループ会社の情報は、このネットワークを通じて集まったものです。今後は、サステナブル経営の浸透およびグループ会社間での情報交換など、当社グループを挙げてCSR推進に取り組みます。

グローバルCSRリーダーのコメント

会社の、そして社会の一員として、地球と社会に貢献する責任があると考えています。お客様はサステナブルな製品を求めている。私たちはサステナブルな調達を求められています。中でもトレーサビリティは製品のサステナビリティに不可欠で、調達先との連携が必要となり、フレイアバディ インドタマの仲間たちと共にビジネスを変えていこうという情熱も必要となります。ハートで取り組んでいきたいと思っています。



フレイアバディ インドタマ
コンプライアンス・
監査担当マネージャー
Natalia Kristiani

社会的価値の創出

健康・栄養

人口増加や高齢化、栄養不足と栄養過剰など、「食」に求められるニーズは、いま世界的に大きく変化しています。その中で「食」の素材メーカーとしての不二製油グループは、さまざまな側面から新しい価値を創出して社会に貢献しています。

高齢者への支援

社会の課題(日本)

2030年の日本は生活環境やライフスタイルが大きく変化

超高齢化社会(日本)

- 人口の約1/3が高齢者
- 団塊の世代が75歳以上になり5人に1人が後期高齢者
- 14歳以下の子どもが現在の2/3に減少

社会保障費の増大

- 健康に対する意識が「治療」から「予防」に
- 要介護比率の低下が「課題」
- 医療・介護費:2008年:41兆円
2025年:90兆円

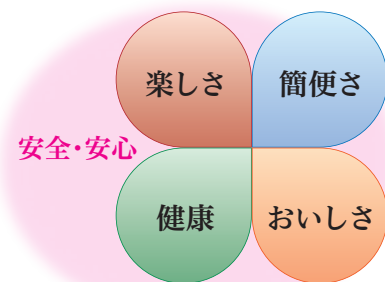
「高齢期の食事に関するセミナー」を約100社の参加を得て開催

高齢者は総人口の25%に当たる約3,000万人に上ります。その高齢期の健康・栄養について考えることは、社会的に大きな価値があります。そこで、2013年11月、「高齢期の食事に関するセミナー」を開催、約100社の食品関連企業に参加いただきました。

セミナーを開催するにあたり、当社は5つのキーワードを提唱し(右図参照)、展示・試食ブースを「惣菜系」「調味系」「チルドデザートおよびパン」「流通菓子」「サプリメント」に分けて提案しました。

各ブースでは、高齢者の方が、必要な栄養成分を効果的に摂っていただける製品群を紹介しました。

健康・栄養5つのキーワード



新型栄養失調※の解消に向け「高たん白・高油分な食」を提案

高齢期を健康に過ごせる食生活への関心は高まっており、社会の要請に先駆的に応えていくことは、油脂と大豆たん白のアプリケーション開発に豊富な経験と知見を持つ当社にとって、最も重要な使命と考えます。このセミナーでターゲットの中心に据えたのは「新型栄養失

調」になっているアクティブなシニア層です。老化の進行を遅らせ、毎日の生活を楽しみながら活力ある人生を送っていただくための「高たん白・高油分(高エネルギー)な食」を提案しました。今後はさらに、消費者の意識を変えていく活動にも取り組み、社会に向け発信をしていきます。

健康意識の高い人ほど、メタボへの忌避意識が残り、特に高齢者には「粗食は体に良い」という考えがまだ根強く残っています。このため当社ではアクティブシニア「食と栄養」研究会の協賛会員になり、社会に向け発信も行っています。

※人間総合科学大学の熊谷修先生のグループが提唱する考え。老化に基づく栄養状態の低下を指し、血清アルブミンの数値を簡便な指標とする。

「減塩」への貢献および今後の展開

食塩は、食品への呈味付与だけでなく、細胞の浸透圧調節、消化・吸収、神経のシグナル伝達など、体の維持に重要な役割を果たしていますが、摂取過剰になると、血管の収縮で血圧が上昇し、動脈硬化や脳血管障害などを誘発する原因となります。

食塩の摂取目標量は男性で8.0g/日未満、女性で7.0g/日未満と設定されていますが(厚生労働省策定『日本人の食事摂取基準(2015年版)』より)、平均摂取量は、男性が11.3g/日、女性が9.6g/日となっており、目標値を大きく上回っています(厚生労働省『平成24年国民健康・栄養調査結果の概要』より)。

これは、減塩食品＝味が薄い、おいしくないというネガティブなイメージが強く、なかなか減塩食品が普及しにくいことに起因しています。当社では少ない塩分や調味料でも塩味、辛味、酸味等が強く感じられる『呈味増強油脂』を開発。無理なく・おいしく減塩できる食品素材として、現在は国内に加え海外のお客様にも提供し、高い評価を得ています。

今後は「抗酸化」を切り口に、酸化安定性が向上した機能性油脂製品の開発を行い、消費者の生活の質向上に食を通して貢献できるよう取り組みます。



呈味増強油脂を使用した麻婆豆腐

TOPICS

アクティブシニア「食と栄養」研究会の一員として高齢者の健康維持に貢献

超高齢社会を迎える中で、筋肉や骨、関節が弱まることで日常生活に大きな支障をきたし、最悪の場合、要介護や寝たきりの状態となる高齢者が年々増えています。アクティブシニア「食と栄養」研究会は、高齢者の「虚弱」、「ロコモティブシンドローム」、「サルコペニア」といった問題に対して、食と栄養を切り口に、予防や対策につながる情報を提供することを目的に2013年3月に設立さ

働く女性の支援

ママ目線の新商品、新事業を創出

女性の社会進出が活発化する日本において、ワーキングマザー市場は今後さらに成長し続けると予測されます。そうした中で、当社はこの新市場開拓を目的に、2014年1月よりワーキングマザーのチームを結成し活動しています。

「日々の食事で悩むワーキングマザーが喜び、料理を通じて子どもたちとのコミュニケーションも深まる、栄養満点食生活提案」をミッションに、ママ目線の新商品、新事業の創出に向け取り組んでいます。



商品開発の意見を出し合うワーキングマザーチーム

低トランス油脂の普及促進

各国で需要の高まり

「飽和脂肪酸」や「トランス脂肪酸」は、油脂の硬度や融点を調整し、機能性を付与するために使用されてきました。しかし近年、米国で米食品医療局(FDA)が食品へのトランス脂肪酸の使用規制を強めるなど、世界中でお客様のニーズが変化してきました。

当社グループではこのようなお客様のニーズに対応できるよう、低飽和脂肪酸・低トランス脂肪酸の製品を開発・販売しています。

特に中国のパン・菓子などの食品には、トランス脂肪酸の含有量表示のものが少なくありません。これは消費者が低トランス脂肪酸・ノントランス脂肪酸を健康面から重視している傾向が強いためです。

不二製油(張家港)有限公司は、お客様の要望にお応えするため、マーガリン・カスタードなどに低トランス脂肪酸の製品を取り揃えています。



中国で発売している低トランス脂肪酸対応品

用途に応じてブースをつくり、計22品目の試食品と、3品目の試飲品を展示



担当役員
コメント

市場環境は大きく変化しており、女性の社会進出、高齢化にともない拡大する「中食市場」において、健康で、環境に配慮した調理用素材を広く提供します。不二製油の製品によってお客様の課題解決に貢献する提案営業を行うことで、わたしたちはお客様満足No.1を目指しています。

取締役執行役員 営業本部長 池田 正史

アレルギーへの対応

フジオイル ヨーロッパの取り組み

フジオイル ヨーロッパの油脂生産工場は、使用するレシチンを大豆由来からヒマワリ由来に切り替えてアレルギーフリーの工場としています。

ココアフィリング・コンパウンド生産工場(FFC)では大豆レシチンを使用した製品が主流ですが、最近はお客のご要望でヒマワリレシチンの使用が増えています。

なお、2014年4月から日本でもヒマワリレシチンの使用が認められました。

またFFCでは乳糖の含量を1,000ppm以下に抑えた製品を生産。乳糖の混入を防ぐための方法を確認し、厳密な生産管理を行っています。



アレルギーフリーの工場

大豆の高付加価値商品で社会に貢献

社会の課題

人口増に伴う食肉需給の逼迫や生活習慣病などが課題

水資源利用効率が高い大豆

- 北緯50度の寒冷地から赤道に近い熱帯まで世界の広い範囲で栽培が可能
- ため、食肉資源の不足を補える
- 生産時の水使用量は牛肉の10%※1
- エネルギー効率は415%※2

大豆たん白の健康機能

- 悪玉コレステロール減少、善玉コレステロール増加
- 血中中性脂肪の減少

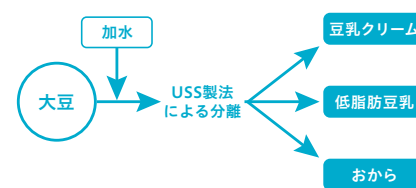
※1 出典: 東京大学生産技術研究所 冲研究室
※2 出典: Earth Interactions Vol.10 (2006)

大豆本来のおいしさを引き出すUSS製法を開発

2012年に開発したUSS(Ultra Soy Separation)製法は、大豆本来のおいしさを引き出しているとして、各界から評価を得ています。

USS製法は生乳の遠心分離を応用した製法で、加水した大豆から、豆乳のヘルシーな貯蔵たん白画分(低脂肪豆

「プレミアム豆乳を生み出すUSS製法のしくみ



左から、USS製法を用いて作った豆乳クリーム、豆乳加工食品、低脂肪豆乳

乳)と、大豆のうま味が凝縮されたリガたん白画分(豆乳クリーム)を分画し、2つの新素材の製品化を可能にした製法です。

この2つの製法によって生まれた製品「プレミアム豆乳」は、高齢者の健康、生活習慣病対策としての「食」のみならず、あらゆる世代の健康的な食生活に貢献するため、当社はさまざまな普及促進活動を展開しています。

期間限定イベント「まめプラスカフェ」を運営

活動の一環としてまず、消費者に体験していただくイベント「まめプラスカフェ」を実施しました。このイベントは、東京・青山の人気カフェ「Royal Garden Cafe」とのコラボレーションによって実現したもので、2014年4月18日から約3週間の期間限定で運営しました。

「プレミアム豆乳」や肉・ツナ用の食感を持つ大豆たん白素材「大豆ミート」を食材として使用したメニューを通して、消費者の方々が大豆のおいしさと幅の



アボガドと大豆ミートのツナ風サンド



ごま豆乳だれの豚しゃぶサラダ

広がりを体験できる場として企画したものです。延べ約31,000人の来店者があり約12,900食のまめプラスメニューが提供され、お客様にも大豆ルネサンスの世界観を体感していただくことができました。この「ことづくり」の試みは、雑誌やメディアでも報道され、大豆の新しい価値の普及促進につながるイベントとなりました。

料理界から一般生活者へ和食文化とともに海外へ

USS製法によって誕生した豆乳クリームと低脂肪豆乳。豆乳クリームを業務用製品『濃久里夢(こくりーむ)』、低脂肪豆乳を業務用製品『美味投入(びみ



和食文化を広める「菊乃井」三代目主人の村田氏

とうにゅう)』として発売して以来、和洋中のジャンルを問わず、料理の世界で活用が広がり、外食の分野で、新しい価値を創出しています。

京都の老舗「菊乃井」三代目主人の村田吉弘氏は、和食のユネスコ無形文化世界遺産登録の実現に尽力した方で、村田氏が理事長を務めるNPO法人日本料理アカデミーは、2014年2月、パリで世界遺産登録の祝賀晩餐会に参加。豆乳クリームを使ったデザートが好評を博すなど、和食のグローバル化とともに、大豆を使った食品が世界に発信されています。

大学の協力を得て「プレミアム豆乳」の新メニューコンテストを開催

一方、当社は若い世代とのコラボレーションを図っています。「プレミアム豆乳」の新しい価値を発掘するため、2013年11~12月、畿央大学・九州女子大学・東京家政大学の3大学でそれぞれ「プレミアム豆乳」メニューコンテストを開催しました。

学生の皆様の豊かな想像力で、柔らくて安全に食べられるおいしい介護



畿央大学のコンテストで発表された新メニューの一例

食や、七大アレルギー不使用のデザートなど、すばらしいレシピが多数誕生しました。今後も産学連携での取り組みを継続し、「プレミアム豆乳」「大豆ミート」を活用した具体的な製品を創り、「食」の分野での社会貢献につなげていきます。

「プレミアム豆乳」をきっかけに「まめプラス推進委員会」を発足

「プレミアム豆乳」を食材に活かすことによって、食生活をより豊かにし、おいしく、ヘルシーなライフスタイル「まめをプラスした生活」を送っていただく活動母体として、「まめプラス推進委員会」を立ち上げました。

この活動に共感いただいた企業・団体※にご参画いただき、「プレミアム豆乳」などを使用したおいしく、ヘルシーな商品を、消費者の方々にお届けしています。ホームページでは、「まめ」に関する基礎知識や健康価値、「プレミアム豆乳」に関する最新ニュースを発信し、健康・栄養・食資源課題に貢献するとともに、新市場創造の起点となっています。

※菊乃井、Wakiya、相模屋食料株式会社、オックスハート株式会社、株式会社エルビー、株式会社 Mizkan(ミツカン)、カネテツデリカフーズ株式会社、伊藤忠商事株式会社、畿央大学、東京家政大学、九州女子大学(2014年4月現在、敬称略)

社会的価値の創出

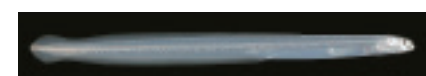
食資源

世界の人口増に伴って、食資源の枯渇は重要な課題です。不二製油グループは「食」の課題解決への一助として、これまでに培ってきた技術を活かした製品の開発・供給に努めています。

水産庁が委託する「ウナギ種苗大量生産システムの実証化事業」に参加

ウナギの養殖は大正時代に技術開発が行われ、以後養殖業者は天然シラスウナギから成鰻までの人口飼育を行っており、天然シラスウナギは、日本沿岸か河口付近および河川で採捕されます。捕獲量は、1960年には100t以上でしたが、2011年には10t程度まで大幅に減少しました。今年は昨年より捕獲量が増加しましたが、稚魚価格の乱高下が養鰻業を圧迫しています。

最近では国産養殖ウナギを利用した蒲焼さも食べる機会が減ってきており、ウナギの食文化を維持していくため、ウナギ資源の持続的な利用確保が喫緊の課題となっています。当社はこれまで大豆ペプチドを餌料原料として水産総合研究センターに提供し、2003年に、ふ化からシラスウナギまでの人工飼育



シラスウナギの人工飼育

に成功、2010年世界で初めてのウナギ完全養殖成功に貢献してきました。

2014年度からは、一般社団法人マリノフォーラム21が主導する水産庁の委託事業に、ウナギ種苗の大量生産システムの構築を目指し、独立行政法人水産総合研究センターはじめ企業等と協同で参画しています。

エビの食感を大豆たん白で実現

近年エビの養殖基地である東南アジアでエビの伝染病が発生し、生産量が激減したことにより価格が高騰しています。お客様よりエビの代替となる素材はないかという要望が寄せられ検討を開始しました。エビの食感や色調に近づけることができるよう試行錯誤した結果、当社がもつ大豆たん白と色素等を組み合わせる技術によって、エビ代替素材が完成しました。今後も製品を通して、エビ資源の安定利用をサポートしたいと考えています。



エビ様食感の粒状大豆たん白

賞味期限延長による食の廃棄ロスへの取り組み

食品廃棄物の削減は食品メーカーの重要な課題として取り組んでいます。お客様の販売動向に合わせた生産を行います。生販バランスを取ることも非常に重要です。過剰在庫による賞味期限切れを発生させないようにしなくてはなりません。特に賞味期限が短い製品のバランス管理には注意が必要です。

当社では、賞味期限が適切に設定されているかを再検討し、一部の製品で賞味期限延長を実施しました。今後も賞味期限延長のための取り組みを継続していきます。

フジオイル ヨーロッパでは廃棄ロスを大幅に削減

食の廃棄ロスの削減はヨーロッパにおいても重要な課題です。EUおよび各国レベルにおいてさまざまな取り組みが行われており、食品の賞味期限、規格に関する新法令が制定される可能性もあります。

このような背景を踏まえ、フジオイルヨーロッパは食の廃棄ロス削減を重要な課題と認識して積極的に取り組んでいます。

油脂生産工場では2013年度、製品ロスが0.6%を達成しました。ローリー出荷の際に発生する製品ロスを集めてグリーンエネルギーの生産に活用してい



担当役員
コメント

高齢化社会を迎える中、研究開発本部では高齢者でも元気な生活を送っていただけるよう「食と健康」を切り口にし、ロコモティブシンドロームや認知症などの予防につながる素材開発を行っています。また、現在、課題である食資源の枯渇については、国内外の研究機関との共同研究により、再生可能な原料に関する研究を進めており、今後の食の課題に貢献してまいります。

取締役常務執行役員 研究開発本部長 前田 裕一

ます。カカオフィリング・コンパウンド生産工場の2013年度製品ロスは1.1%で、製品パイプロとして飼料用に使用されています。

今後も廃棄ロス削減に向けた取り組みを推進していきます。



フジオイル ヨーロッパの油脂生産工場

地域食品・醸造残さからの高品質・高機能油脂生産に向けた研究

農林水産省の「平成25年度農林水産業・食品産業科学研究推進事業 シーズ創出ステージ」研究課題として、新潟薬科大学応用生命科学部等の5機関と共同し2013年より3年間の研究プロジェクトを開始しました。食品・醸造業等の地域活性化のために、未利用の地域食品・醸造残さを原料に、高品質・高機能油脂生産に向けた研究を行い、日本の地域立脚型産業を目指します。

プロジェクトでは油脂生産に適した2種類の油脂酵母で高効率の油脂生産技術を確認させ、当社は酵母から産生される油脂の回収、精製プロセスの開発と、食品用途での品質・価値の評価を行います。

地域食品・醸造残さを利用することで、農産物の付加価値増大、地域ブランド化、高品質油脂増産による経済効果が期待できます。また、日本ブランド

の食用油脂あるいはバイオマス活用モデルとして、グローバルな展開が期待されています。

地域食品・醸造残さからの高品質・高機能油脂生産に向けた研究



地域社会との共生

堺市の小学校で理科実験授業を実施

当社では持続的な成長を目指す中で、地域社会との共生を大切にしており、その一環として理科実験授業を行っています。2013年度はNPO法人テクノメイトコープの「創造性豊かな理科好き子供育成事業」に賛同し、当社開発部員が堺市の小学校で理科実験授業を10校計30回実施しました。水と油でも工夫することで混ぜることができる「乳化技術」の実験を通じて、クリームやマヨネーズなどの身近な食品の製造にも科学技術が使われていることを体感してもらい、科学技術の面白さや重要性を紹介しました。

この乳化技術を用いた製品や、材料となる油脂の生産を行う当社が、地域や世界中の人々の食と密接に関係していることを知っていただく良い機会となりました。2014年度も引き続き実施し、地域社会との共生を目指していきます。



当社開発部員が授業を実施している様子

環境

食品を扱う事業者として、不二製油グループは、「安全・品質・環境を最優先する」ことを経営理念に掲げています。この経営理念に基づいて策定した「不二グループ環境基本方針」を原点に事業活動を推進しています。

環境マネジメント

環境ビジョン

当社グループは2010年に「不二グループ環境ビジョン2020」を策定し、基準年（2003／05年平均）対比で2020年までのCO₂排出量、給排水量をそれぞれ20%削減する目標を設定し、環境保全活動を推進しています。国内における2013年度実績は、CO₂排出量は9.8%、給水量は20.7%、排水量は21.5%と基準年対比でそれぞれ削減しており、環境ビジョンは順調に推進しています。

引き続き、生産設備のリニューアルにおける省エネ設備の導入、日常の省エネ活動や給排水の削減に努めます。一方、海外におけるCO₂排出量は基準年対比では27%減となり、海外においても環境ビジョンは順調に推移しています。

不二グループ環境ビジョン2020

国内グループ

地球温暖化防止
CO₂排出量2020年20%低減 (基準年対比[※])

水資源の保全
給排水量2020年20%低減 (基準年対比[※])

海外グループ

CO₂排出量 2020年20%低減 (2006年対比)

資源リサイクル
再資源化率2020年99.8%以上

地球緑化、生物多様性への積極取り組み

※基準年:03・05年平均値 (東京都方式)

今後は海外グループ会社ごとの目標設定を行うことにより、さらにCO₂削減を推進します。

海外グループ会社への展開

海外グループ安全・品質・環境会議の実施

当社の海外グループを対象とした会議を、2013年12月に中国圏対象、2014年4月に東南アジア・欧米圏対象で実施しました。安全・品質・環境は当

社経営理念の「経営の基本」であり、その啓発、情報交換および意見交換による各社のレベルアップを目的として開催しました。当日は、「各国の実情」、「各

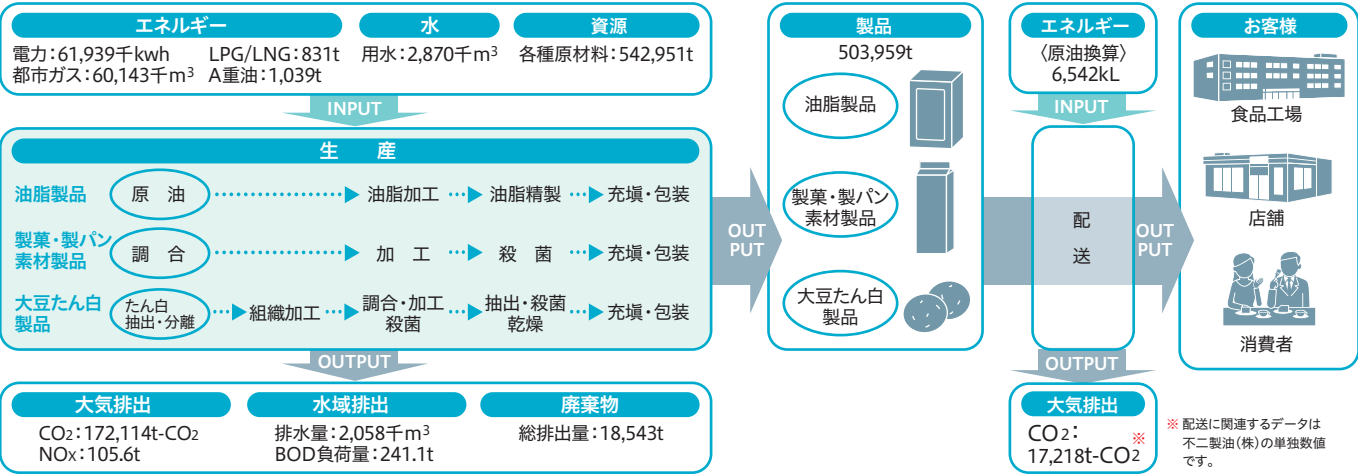


海外グループの第1回安全・品質・環境会議

環境活動の目標と実績(2013年度) ○:目標を達成 △:目標を75%以上達成

項目		内容	2013年度実績	環境ビジョン進捗 (対基準年比較)	評価
1	省エネ推進 (国内グループ)	CO ₂ 排出量の削減	対前年 5.3%の削減	9.8%の削減	○
2	給排水削減 (国内グループ)	給水量の削減	対前年 4.2%の削減	20.7%の削減	○
		排水量の削減	対前年 3.8%の削減	21.5%の削減	○
3	廃棄物削減 (国内グループ)	排出廃棄物の削減	再資源化率 99.94%	再資源化率99.94%	○
4	省エネ推進 (海外グループ)	CO ₂ 排出量の削減	対前年 0.6%の増加	27.0%の削減	○

環境負荷の全体像



社の状況」、「各社の取り組み・課題」の発表と活発な議論が行われ、他のグループ会社でも参考にすべき実例や、採用できるユニークな活動も披露されました。今後、中国圏、東南アジア・欧米圏で毎年定期的に開催します。

当社では、海外グループ会社も含めた新たな安全品質環境基本方針を策定し、経営理念のグローバル化と共有化をさらに進めていきます。

PIC活動※
海外グループ会社の参加

PIC活動は、ボトムアップにより職場を改善することを目指しています。最前線で働く従業員が、自らの意志で日頃困っていることを課題として解消に取り組むのがこの活動です。地道に原因を追究して対策につなげるやり方を身に着ければ、職場の課題を克服して生

産性向上につなげることができるという考えです。
海外グループ会社については、日本人出向者が中心となって現地で展開していますが、地域性があるため、日本人出向者とのコミュニケーションを密にして、有効な支援につなげています。

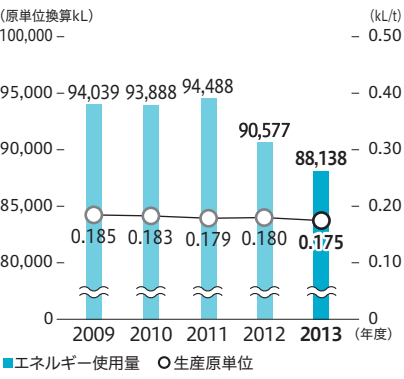
※Productivity Improvement & Challenge 生産性改善と挑戦活動・生産部門の改善活動の強化と現場の活性化のための活動

地球温暖化防止への取り組み

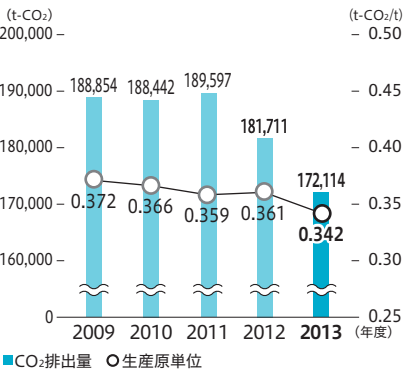
生産活動におけるCO₂排出量の削減

2013年度の国内グループ会社のCO₂排出量は約172,114t-CO₂となり、対前年5.3%減少しました。生産数量はほぼ横ばいでしたので原単位でも5.4%減少しました。「不二グループ環境ビジョン2020」の目標達成へ向け、着実に省

エネルギー使用量と原単位推移
(不二製油を含む国内グループ会社)



CO₂総排出量と原単位推移
(不二製油を含む国内グループ会社)





担当役員
コメント

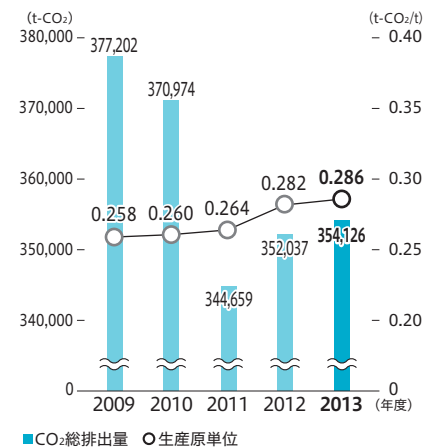
私どもは「不二グループ環境ビジョン2020」で環境指標20%削減（対2003/05年平均値）を目指しています。給排水では既にこの数字を達成し、新たな目標設定を考えています。CO₂については対前年5.3%削減（基準年対比 9.8%削減）を達成して目標ラインに沿っています。目標以上の成果を得て、地球環境にやさしい企業を目指します。

取締役常務執行役員 生産管理本部長 内山 哲也

エネ設備の導入や省エネ活動の推進の成果がでています。

また、海外グループ会社では354,126t-CO₂で対前年0.6%増となり、わずかに増加しましたが、燃料転換やコージェネレーション設備の導入など、CO₂排出量の削減に努めています。

海外環境データ



生産技術の開発によるCO₂排出量の削減

不二製油グループでは製菓用やチョコレート用油脂の製造に欠かせない油脂分別技術やエステル交換技術の研

究と改良技術にグループ全体で長年取り組んでおり、その技術も日々進化しています。

パーム油の分別では、省エネルギーにとどまらず溶剤使用を減らし、また、品質改良をすべくマレーシアを中心に乾式分別の技術開発に鋭意取り組んでいます。油脂精製では、エネルギー多消費の従来型真空発生装置をアイスコンデンス方式に転換するため、グループを挙げて早くから導入しマレーシア、アメリカ、ベルギー、日本で順次導入。2014年はシンガポールでも稼働予定です。CO₂排出量や排水量の削減、近隣への臭気軽減などに貢献する対策の横展開を計画しています。



アイスコンデンス式真空発生装置

包材基準見直しによるCO₂削減を実現

包材の環境対応は2009年より取り組んでいます。まず「包材基準」を作成し、各工場の個別規格から一般品に切り替えました。段ボールは留型仕様が中心でしたが、本来必要な約15%を除き2013年度までに切り替えを完了しました。この取り組みにより364tのCO₂が削減され、薄化により物流効率も25%以上向上しました。フィルム、一斗缶でも薄化可能品は切り替えています。

温度帯、重量、品種によって包材基準を作成しており、今後は国内グループ会社、委託先にも広げて、集中・共同購買等を進め、さらに環境負荷の低減を図ります。海外グループ会社の包材購入の指針としても活用を予定しています。

新しい対策としては、段ボールへの直接印字・冷凍食品用の規格統一・持続可能な方法で管理された森林からの素材調達への切り替え、さらには社内移動用容器のリユース、紙や段ボール素材のリサイクル、フィルム素材のバイオプラスチック化などの検討を始めています。

輸送によるCO₂排出量の削減

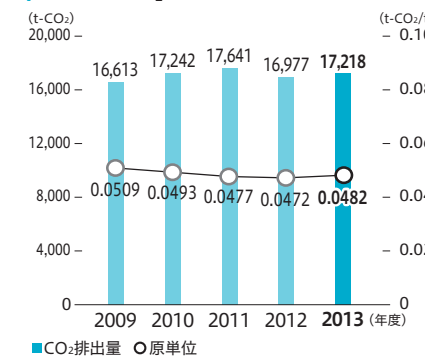
当社では、CO₂排出量の抑制を目的とした鉄道貨物輸送への転換に取り組んでいます。

2013年度の輸送によるCO₂排出量

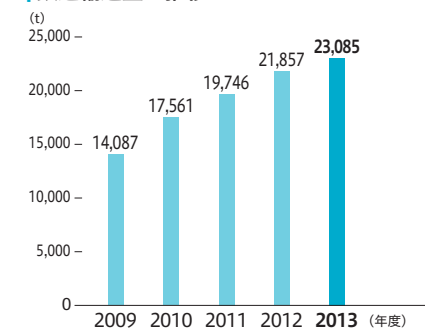
と原単位は、輸送量の増加などにより前年に比べ微増しました。2013年度の鉄道輸送量は23,085tとなり、2012年度から1,228t増加しました。2013年9月には、国土交通省・鉄道貨物協会が推進する「エコレールマーク」の企業認定を取得しました。これは、地球環境に優しい鉄道貨物輸送を一定以上利用している企業に対して認定されるもので、マークの表示によって消費者の皆様に判断基準を提供する制度です。鉄道輸送にはさまざまな制約がある中で、現行数量を維持できるよう努めています。



輸送でのCO₂排出量推移



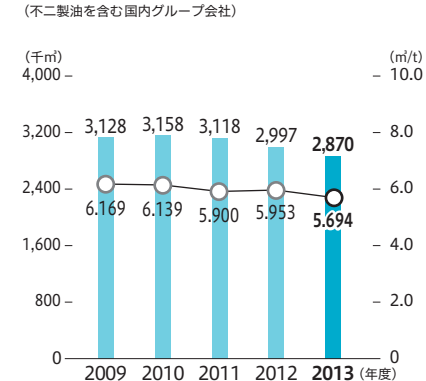
鉄道輸送量の推移



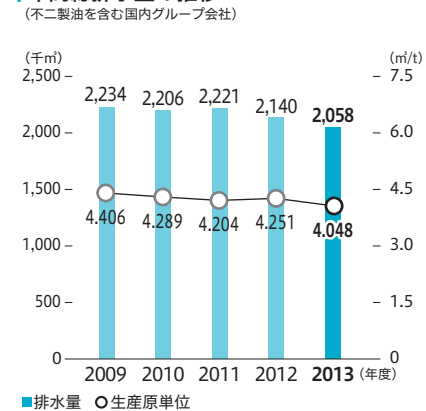
水資源の保全

2013年度の当社および国内グループ会社の給水量は、2012年度対比4.2%減の約2,870千m³となり、生産原単位では4.4%減少しました。排水量についても、総量は2012年度対比で3.8%減少となり、生産原単位でも4.8%減少しました。各工場が地道な節水活動に取り組み、給排水量削減を実現することができました。

年間給水量の推移



年間総排水量の推移

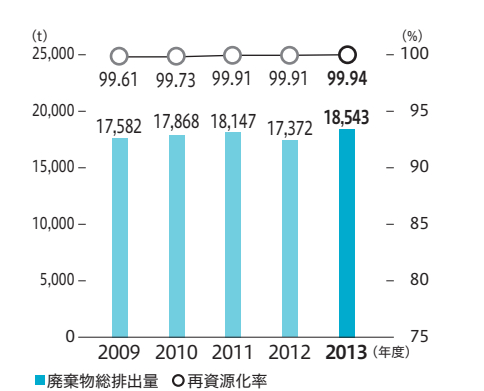


廃棄物削減

1tボックス、小ロットタンクによる容器・廃棄物削減

一斗缶（内容量15～16kg）または段ボール（内容量15～25kg）について、内容量1tの特殊容器への切り替えを進め、お客様の包材廃棄物削減に寄与しています。また、小ロット多品種生産が多い当社では、これまで小容量の油脂の保管にスチールドラムが使われてきましたが、まとまった数の特殊小容量タンクを設置することでスチールドラムの使用量を削減しています。

廃棄物総排出量と再資源化率



持続可能な サステナブル調達

持続可能な方法で生産された原料で、持続可能な製品を企画・開発・生産し、お客様・消費者の皆様はその価値をお伝える。そのような経営をグローバルで推進するため各種ステークホルダーとも連携し取り組んでいます。

持続可能な調達のために

お客様への供給責任を果たすためにもサステナブル調達は大変重要です。お取引先に対しては、「CSR調達ガイドライン」を策定、アンケートを実施することで、より公平・公正な取引に努めています。農園にまで遡って、生産、労働環境、人権および地球環境への配慮を行うことが必要であり、不二製油はグループ会社とともに、RSPO^{※1}認証原料の調達やUTZ^{※2}(ウツ)認証の取得などに注力し、長期にわたって安心して調達をできるように対策を講じています。

※1 RSPO：持続可能なパーム油のための円卓会議

※2 UTZ：将来にわたり、続けることができる農業のための国際的な認証プログラム

基本的な考え方

原料調達は、より高品質で安価な原料を求めて調査を行い、原産地に出向いたり工場を訪問して、使用基準に合致しているか安全確認をしながらサプライヤーとの関係強化を図っています。世界の人口増加に伴う食資源不足への不安もあり、生産性の向上も重要です。例えば、カカオ豆のようにスペシャリティな原料では、産地のみならず特定の地域や農園から購入することを前提とした「トレーサブルカカオ豆」を採用しており、購入代金の一部が生産地でのインフラ整備や教育の向上に役立てられています。現地での生産活動を支援する仕組みが広がります。

あり、当社グループもトレーサブル(生産地が特定できる)カカオやトレーサブルなパーム油の調達を徐々に実施しています。

UTZ(ウツ)認証への対応

フジオイル ヨーロッパは、一部の製品でUTZ認証を取得し、生産を開始しています。現状ではUTZ認証製品の価格が高いことが課題となっていますが、問い合わせは多く寄せられています。



RSPO認証への対応

当社グループでは、地球環境に配慮し、パーム油を将来にわたり長く使用するため、RSPOに2004年より加盟しています。

近年、お客様からのRSPO認証製品への要望の高まりを受け、フジオイル ヨーロッパでは2013年度よりパーム油分別工程を完全にSG^{※1}対応をしています。日本では2014年8月より油脂事業部(タンクヤード、油脂工場)でSG・MB^{※2}を取得しました。

また、フジ ベジタブル オイルでは、2014年度より既存のサプライチェーンに加え、新たなRSPO認証原料購入先と取引を開始しています。

※1 SG：複数の認証農園からの認証油が、最終利用者に至るまで非認証油と混合することなく取引されること。
※2 MB：管理・流通の中で非認証油との混合が認められる油のこと。

Global Shea Alliance に加盟

フジオイル ヨーロッパは2013年、

ガーナにあるインターナショナル オイルズ アンド ファッツ (IOF) に資本参加し、シアビジネスに参入したのを機会に、2014年、The Global Shea Alliance (GSA) に加盟しました。IOF は来年加盟の予定です。

GSAは、シア脂(西アフリカで産出されシアからとれる植物性油脂)のバリューチェーンに携わるあらゆるステークホルダーによる同盟です。シア産業の振興とアフリカ農村域の女性とコミュニティの生活水準の向上を使命としています。GSAを通して、シアの持続可能性を目的とした取り組みを支援していきます。



非遺伝子組み換え大豆の調達

当社グループでは、遺伝子組み換え(GMO)大豆は調達しておりません。

中国では現在、GMO大豆の栽培は原則禁止されています。中国で信頼度の高いNon-GMO大豆は黒龍江省産で、吉林不二蛋白有限公司は産地に近いメリットを活かし、より安全な大豆の安定調達を図っています。



大豆畑の様子

有識者とのダイアログを実施

2014年6月23日、大和総研・河口主席研究員と認定NPO法人ACE・白木事務局長をお招きし、当社の各事業部担当執行役員(事業本部油脂事業部長、同チョコレート事業部長)などを交えてステークホルダーダイアログを実施しました。

持続可能な調達に向けた取り組み

RSPO、フェアトレードなど、各種認証の意義や社会への貢献度について、現状を踏まえて本音での意見交換が行われました。認証の取得や認証品の使用の必要性を感じていますが、安定的な原料調達を将来も可能とするには、認証取得などにとどまらず、それを越えた何らかの「本気の取り組み」がサステナブル観点から必要との見解で一致し、具体的なオプションや実現に向けた課題、お客様や消費者の皆様への説明なども含め意見交換されました。

消費者の皆様と向き合う

エシカル[※]消費についての理解・関心

有識者の方々



河口 真理子氏

株式会社大和総研 調査本部 主席研究員。2013年には、当社「CSRレポート2013」で清水社長との対談を行った他、CSR推進委員会にてエシカル消費等をテーマに講演。



白木 朋子氏

認定NPO法人ACE事務局長。農産物の生産現場で児童労働の撤廃に取り組む同NPOでカカオ関係を担当、製菓会社と協働したフェアトレード・チョコレートの発売を実現。



右から、河口真理子氏、白木朋子氏
左から、不二製油・広沢、佐野、信達、谷井、後藤

が若年層を中心に広まりつつある実例を参加者で共有し、「あなたの選択は持続可能な社会づくりへの第一歩です」と消費者が問われる時代はすでに到来しており、さらにその傾向は深化してゆくと有識者よりご意見をいただきました。それを受けて、メーカー、流通事業者、NPO・NGOがどのような形で消費者と向き合うべきか、どう連携していけるかについて、種々の角度から具体的な意見交換が行われました。

※フェアトレードなど社会的意義のある商品を選ぶ消費行動

企業の枠を超えた取り組み

持続可能な社会の実現に向けた取り組みについて、企業とNPO・NGOとの連携、業界内の連携、メーカーと流通業界の連携などの必要性やそのメリットが話し合われたほか、実現に向けた課題について率直な意見も交換されました。

当社からは、過渡期であり、課題解決の見通しも不透明ですが、今後とも取り組みを進めていきたいとの意見が出、有識者からは協力していきたいのご発言がありました。

不二製油の参加者

執行役員 事業本部 油脂事業部長
広沢 達明

執行役員 事業本部 チョコレート事業部長
佐野 浩之

事業本部 原料部長
信達 等

事務局 経営企画部 CSRグループ
谷井 俊夫、後藤 愛



担当役員
コメント

当社グループの製品をお客様に満足していただくことが経営の基盤です。お客様に満足していただける製品を作るためには、原材料が常に安定して良質であることが必須です。当社グループでは、信頼するサプライヤーと共に、原料と資材の持続的安定調達に取り組んでいます。主要な植物性原料のパーム、カカオ、大豆については、特に限りある大切な食糧資源であることを認識し、人権や環境保全にも配慮し、グローバルに調達を行っています。

取締役常務執行役員 事業本部長 木本 実

サプライチェーンにおける不二製油グループのCSR活動

当社グループはサステナブル調達を重要課題と考えており、調達から生産、物流、提案営業に至るまで、サプライチェーンの構造改革に取り組み、総合的に管理しています。



国連グローバル・コンパクト10原則

ステークホルダーとの対話

CSR 取り組みの 重点テーマ (2013年度の 取り組み)

健康・栄養、食資源、環境などの課題解決に貢献できる基礎研究、製品開発を行っています。

- 高齢者の健康をサポートする製品
- USS製法の開発・製品化
- 働く女性を支援する食品
- アレルギー対応製品
- 低トランス脂肪酸製品
- ウナギの完全養殖用飼料
- エビ様食感の粒状大豆たん白
- 食品廃棄ロス削減の賞味期限延長の研究



USS製法を用いて
作った豆乳クリーム



シラスウナギの人工飼育

サステナブル調達に向けて、環境、人権に配慮した原料調達に努めています。

- CSR調達ガイドラインに基づくサプライチェーン管理
- 当社グループでの各種認証取得の推進
- 農園や仕入先との対話
- 有識者との対話
- パーム、カカオ、大豆などの安定調達
- トレーサブルカカオの推進

TOPICS

ココアに関するサプライヤーとの協働

インドネシアのグループ会社・フレイアバディ インドタマは、サステナブルプログラムや認証を取得している供給先との取引を優先しています。このためFAIの監査担当者は、安全、品質、環境、健康、倫理の観点からの監査を行っています。また供給先のうち大手は、アフリカやインドネシアで農家と協働し、品質・生産性の向上と併せ環境によい農法の普及に取り組み、持続可能な調達に取り組んでいます。

「不二グループ環境ビジョン2020」に基づき、高い目標を掲げて取り組んでいます。

- 安全・品質・環境会議の実施および海外グループ会社への拡大
- 生産技術による省エネ活動
- 容器・包装エコの推進
- 廃棄物削減
- 輸送によるCO₂排出量削減



海外グループの
第1回安全・品質・環境会議



アイスコンデンス式
真空発生装置

高齢者や働く女性への支援など健康・栄養に関するさまざまな普及活動を行っています。

- 高齢者の健康な食生活を支援するためのセミナー開催
- 働く女性を支援する新市場開拓に向けたワーキングマザーチーム結成
- 健康・栄養、食資源に貢献できる製品の課題解決型提案営業
- 大豆の普及、促進活動「まめプラスカフェ」を期間限定で運営



「高齢期の食事に関する
セミナー」を開催



まめプラスカフェ

人づくり

不二製油グループが「ありたい姿」を達成するには人材育成が最重要課題と認識しており、あらゆる側面で挑戦する従業員を育成するため、教育の徹底、積極的な登用とともに、ダイバーシティへの対応、グローバル人材の育成などに努めています。

ダイバーシティ

管理職への登用、職域拡大など女性活躍推進の拡大

当社グループは外部環境の変化に迅速かつ柔軟に対応するため、多様な属性や価値・発想を取り入れることができますよう、女性活躍推進にも力を入れています。女性管理職は2013年度の7名から2014年度は10名で3.4%(全管理職中)と着実に増加、2014年度には女性管理職が初めて海外グループ会社へ出向するなど、活躍の場が広がっています。また、女性の職域拡大を図るため、2014年度には新卒正社員で初めて生産職場への女性配属を開始しています。

フジ ベジタブル オイルでは2013年末時点で、全管理職に女性が占める割合が20%を超える(全管理職23名中5名が女性)など優秀な女性の積極的な登用と、安心して活躍しやすい職場づくりに取り組んでいます。

また、中国のグループ会社・不二製油(張家港)有限公司では、係長以上の役職者62人(出向者含む)のうち12名が女性、多くがワーキングマザーです。



女性による国内開発グループの打ち合わせ

カムバック・エントリー制度など育児勤務者支援策の充実

従業員のワーク・ライフ・バランス、特に育児や介護と仕事の両立を支援し、多様な働き方ができる環境整備を進めています。2013年度は11名(対前年2名増、うち男性3名)が育児休暇を取得しました。

出産、育児、介護などでやむを得ず退職した従業員が、当人の希望に沿った勤務形態で職場復帰できる「カムバック・エントリー制度」を2011年度から導入しており、2013年度は2名が登録しました。

また、子育てサポート企業としての認定「くるみんマーク」を2010年度に引き続き取得し、活動しています。



次世代認定マーク「くるみん」を取得

定年退職者再雇用制度による活躍の場の提供

高年齢者雇用安定法の改正に伴い、65歳を上限とする定年退職者再雇用制度を設け運用しています。2013年度は11名が定年を迎え、希望者10名全員が引き続き活躍しています。本人の希望にできるだけ沿うよう、個別面談を通して幅広い処遇を検討し、今後もさまざまな点を考慮しながら運用を進めます。

ワーク・ライフ・バランス

2014年度より全社でフレックスタイム制度を導入

ワーク・ライフ・バランスの充実、当社グループのさらなる発展のために欠かせない取り組みです。従業員の業務内容や家庭環境は多岐にわたっており、

TOPICS

ダイバーシティ西日本勉強会「育児とキャリアの両立セミナー」開催

2013年より、関西企業34社が知識と経験を共有し、実践的な学びを得る場「ダイバーシティ西日本勉強会」に参画、育児勤務者活躍支援チームで活動しています。5月30日に開催した「育児とキャリアの両立セミナー」には各社から約70名が参加、上司代表者の講演、育児勤務者パネリスト3名の登壇、グループディスカッションと活発に議論いただきました。上司からは「当事者の思いや、上司としてどう対応すべきか理解できた」など、多くのコメントが寄せられました。今回のセミナーが良い機会となり、今後のキャリア形成につながればと期待しています。



上司代表者の講演
執行役員 松本 智樹



担当役員
コメント

挑戦し続ける人材を育成していきます

持続可能な経営に不可欠なのは「人づくり」です。今後ますます世界市場の変化が加速する中、その変化に対して挑戦し続ける人材育成がより一層重要になっています。中でも人材育成において鍵を握るのは、課長やグループリーダーなどのミドルマネジメント層です。自ら考え、自ら挑戦する人づくり、および活き活きとした集団づくりが最大の課題です。挑戦して失敗しても結果は問いません。常に革新に挑み続ける人材を育成し、持続可能な企業集団を目指します。

取締役常務執行役員 人事総務本部長 小林 誠

柔軟性ある労働時間勤務が必要です。そこで、一部の事業所で実施していたフレックスタイム制度を、全社統一の制度として、業務の効率化・育児・介護など、継続性を伴う事由がある従業員を対象に2014年度より実施しています。

「不ニアクティブネットワーク(FAN)」の定着・推進

1998年に設置した「不ニアクティブネットワーク」では、男女の区別なく誰もが自らの能力を発揮できる職場風土づくりを目指し、現在は仕事と育児の両立支援や従業員の意識改革、仕事と介護の両立などに取り組んでいます。2013年度は、ワーク・ライフ・バランスおよび介護支援制度とその利用法を紹介するセミナーを計3回実施しました。



外部講師を招いてのワーク・ライフ・バランスセミナー

人材育成

次世代グローバルビジネスリーダーの育成プログラムに着手

当社グループでは、グローバル経営を進めるうえで必要な「組織を動かし事業の創造やイノベーションを起こせ

る次世代グローバルビジネスリーダー」の育成を早急に進めています。30〜40歳代を中心に優秀層から将来の経営幹部候補を選抜し、経営トップが参加する研修で経営の基礎を集中的に講義することを検討しています。修了者には、経営者層就任などにより、実践の中で経営能力を磨くチャンスを与え、リーダーを育成していきます。

海外グループ会社ナショナルスタッフの研修体制を構築

グループ経営を推進するうえで、海外グループ会社の現地スタッフと企業理念や経営基本方針を共有することが重要です。このため、2012年度より本社で、海外グループ会社のマネージャー層を対象とした研修を、英語、中国語の2グループに分けて実施しています。2013年度は22名(英語11名、中国語11名)が受講し、帰国後は各社で企業理念や経営基本方針の浸透を図っています。



中国語グループの研修生

労働安全衛生向上への取り組み

メンタルヘルス策として従業員有資格者が対応

従業員のメンタルヘルスについては、産業医・看護師などと連携し、「心の健康相談室」を設置するなど、メンタルダウンの予防・早期発見・早期治療などに取り組んでいます。また、傷病(メンタルヘルスを含む)による休職者の、休職中および復職後のフォローを行っています。今後は総務部スタッフが、より専門的知識やスキルを習得し、日々の対応に活かすため、2014年度よりメンタルヘルスマネジメント検定の資格取得を目指します。

当社および国内グループ会社では、EAP(従業員支援プログラム)の導入を検討しており、海外出向者には、従来から実施してきた健康診断と医療アシスタンスプログラムの充実化を図ります。

食の安全・安心・品質

不二製油グループでは、安全・品質・環境を最優先することを経営の前提に据え、1996年に品質方針を制定*し、各種認証取得に取り組んできました。さらに、品質方針を実践するうえで守るべき内容を具体化した「品質指針」を定め、安全・安心でお客様に満足いただける製品づくりに取り組んでいます。

※「不二製油グループ 安全品質環境 基本方針」として、2014年5月1日に改めて制定

お客様視点による品質保証体制

当社では、原料調達から生産・出荷までの各工程において、製品やその製造プロセスが当社の規格・基準をクリアしているかをチェックする「品質管理グループ」を各事業部に設けています。加えて、法令の遵守、および「お客様視点で高品質な製品であるか」を検証する独立組織として「品質保証部」を設置し、横断的に製品・製造プロセスを検証しています。

さらに、国内の自社工場や委託先には、原則毎年「品質インスペクション」を実施し、生産管理の状況などを監査しています。また月1度「安全・品質・環境会議」を開催し、関連部門が問題点や課題とその対策を報告し、情報を共有することで問題の再発防止に向け

た横展開を図っています。

海外拠点では、国内同様、品質に関わる外部認証を取得するとともに、2年に1度「品質インスペクション」を実施して国内拠点と同等レベルの管理体制を保証しています。



品質マネジメント認証の活用

当社グループは、経営理念において「安全・品質・環境」を最優先することを掲げており、お客様に満足いただける、より信頼性の高い品質マネジメントシステムを実現するため、品質マネジメントに関する各種の外部認証取得を推進しています。

主なマネジメント認証の取得状況

HACCPまたはISO22000認証

海外グループ会社 14社

ISO9000認証

不二製油(株) 国内13拠点

国内グループ会社 3社

海外グループ会社 8社

GFSI承認規格

海外グループ会社 6社

Halal(ハラール)認証

海外グループ会社 11社

Kosher(コーシャ)認証

海外グループ会社 9社

(注) 個別の商品についてHalal、Kosher認証の有無をご確認されたい場合は、各グループ会社にお問い合わせください。

フード・ディフェンス対応策 およびFSSC22000認証取得

2008年の冷凍餃子事件の発生以降、フード・ディフェンスについては状況を注視してきましたが、2013年末に国内で発生した意図的混入事件を受け、大きく状況が変化しました。当社も取り組み強化の必要性を強く認識し、すでに実施していた薬品関係に加え、潤滑油等の施錠管理、出入口の施錠管理



担当役員
コメント

私どもはお客様に、安全・安心で高品質な製品をお届けしています。また、日本は比較的安全な社会であると考えられていました。しかし、昨今、日本においても食品安全を揺るがす事件が起こっています。もちろん当社では従業員と会社がお互いに満足し、信頼し合っていると信じて疑いません。一方、社会の要請やお客様の要望で、食の安全を形で表す必要が出てきました。そのため当社では、フード・ディフェンスの観点から「FSSC22000」(食品安全マネジメントシステム)を導入します。欧米では、以前より「フード・テロ対策」が講じられており「FSSC22000」で一層食の安全を達成してまいります。

取締役常務執行役員 生産管理本部長 内山 哲也

強化などに着手したほか、ユニフォームポケットを無くす方針を決め、現存のものについてはポケットの縫い付けを行うこととしました。また、生産エリアの重点ポイントについては監視カメラの設置を検討しています。

さらに、HACCP管理の強化によって、異物混入や微生物発生の抑制とともに、フード・ディフェンスに対する目に見える取り組みとして、GFSI承認規格*の一つ食品安全マネジメントシステムFSSC22000の認証取得に向け活動を開始しています。まずは、冷凍食品関連の各工場を優先して認証取得し、その後全工場に認証拡大する計画です。

※GFSIは2000年に設立された非営利組織で、国際的な食品安全の確保・向上を目的に、同団体の求める水準を指針として公表し、世界各国の著名な食品安全マネジメントシステム規格を比較検討して、適合する規格を承認している。

Halal(ハラール)、Kosher(コーシャ)対応

グローバル展開を目指す当社グループは、より競争力のある会社となるため、社会環境の変化に敏感に対応しています。世界中にはさまざまな人種と宗教をもつ人々がいる中、企業にはその人々が大切にしている食生活の文化や多様性に十分配慮した対応が求められます。

当社グループでは、イスラム教やユダヤ教の食事規則に順じた原材料や食品製造を証明するHalal認証、Kosher認証の取得を推進しており、アメリカ、中国、インドネシアなどで取得を進め

ています。

今後もさまざまな宗教の人々に安全・健康でおいしい食品を提供できるような体制を整えていきます。

インドネシアにおける対応

当社グループのフレイアバディ インドタマは、文化と宗教の多様性に対応するため、原料のすべてをHalal認証品としています。

人口の大半がイスラム教徒であり、Halal認証の取得は市場で受け入れていただくため必須となります。2011年以降工場全体で、ハラル保証システム(Sistem Jaminan HALAL)認証をA級評価で取得しており、2014年も取得に向けて取り組みます。

また、ユダヤ教の人々のチョコレートニーズに対応するため、全原料でのKosher認証取得に向けて、サプライ

ヤーの協力を得て、2013年10月から準備を進めています。

カカオ原料の残留農薬・重金属分析および視察の実施

食品は安全・安心が最も重要な品質です。このため、チョコレート主原料のカカオ豆についても当社食品安全分析センターで残留農薬、重金属の分析を行っています。さらに安全・安心を追求するため、カカオ農園を訪問し、栽培方法、土壌、発酵、乾燥方法などを確認して、カカオ豆の安全・安心とおいしさの品質を確保しています。



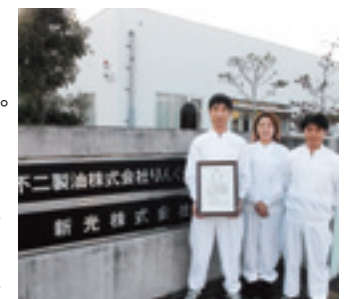
カカオ農園視察の様子

TOPICS

りんくう工場が大阪府知事商品衛生優良施設表彰を受賞

不二製油りんくう工場は保健衛生の向上に尽力した功績が顕著であると評価され、2013年11月、「食品衛生関係優良施設に対する大阪府知事表彰」を受賞しました。りんくう工場は、バラエティーに富んだカラーチョコレートを製造しており、品種切り替え作業が多く、ラインを組むハンドリング作業が多いため、衛生管理には特に気を使っています。

今後も安全・安心なもののづくりを通して、さらなる社会的信頼を得られるよう、小ロット多種多様のチョコレート製造に取り組んでいきます。



ガバナンス、リスクマネジメント、地域社会との共生

不二製油グループは、透明性の高い健全な経営を目指して、事業活動の基本となるコーポレート・ガバナンスの強化に継続的に取り組み、CSR活動の基盤を、より強固なものとしていきます。同時に、持続可能な事業活動の推進のため、コンプライアンスとリスクマネジメントの強化を図っています。

ガバナンス

「不二製油グループ贈収賄防止基本方針」を策定、2014年度から適用

近年、贈収賄・腐敗行為による法規制が国際的に強化され、摘発が厳格化しています。当社ではグループ全体の取り組みとして、「不二製油グループ行動規範」の周知徹底を図り、法令遵守に加えステークホルダーの期待や要請に応え、企業市民として社会倫理に則った公正・透明な企業活動を実践するために、贈賄行為を禁止する姿勢を示しています。

また、事業のグローバル化の進展を踏まえ、2013年度より、「不二製油グループ贈収賄防止基本方針」を2014年度上期内に施行します。

2014年度下期には、上述の方針に基づき、内規も整備し、グループ全体へ展開していきます。

中国グループ会社では行動指針を掲示しミーティングでの啓発を地道に継続

中国では政府が率先垂範し、贈収賄防止に努めています。公正な企業活動は当然であり、日本人および現地スタッフを問わず、一人ひとりが当社グループの従業員であることを自覚し、国連グローバルコンパクトなどの実践につなげるのが肝要です。吉林不二蛋白有限公司（吉林省）では、行動指針を提示し、

日々のミーティングでリスク事例を挙げ、取り組んでいます。

インドネシアのグループ会社では行動規範を従業員・取引先へ展開

従業員への周知徹底

当社グループのインドネシアにあるフレイアバディ インドタマ (FAI) は、2011年度には全従業員に行動規範の徹底を促していましたが、2013年度には、Freyoというキャラクターを用いた「FREY行動規範」を新たに制定しました。この新規規程は当社の行動規範をFAIの既存の行動規範と組み合わせたもので、キャラクターを用いて3つの原則を表現しています。中でも基本となるのは「正直」です。これは腐敗防止を目的としており、2014年度も引き続き贈答や接待、秘密保持、利益相反に関するルールの徹底などに取り組めます。



全サプライヤーと「行動規範」を共有

FAIは、すべてのサプライヤーに対して法令遵守を勧奨しており、中でも腐敗、反競争行為、縁故主義の防止および労働条件の適正化に力を入れています。

行動規範については、従業員に対する安全で健康的な職場の提供、環境の保護、倫理規程の策定を求めており、原料・包材の業者に対しては、食品の安全に関する基準の策定・実施も求めています。また、サプライチェーンを含めた公正な事業の推進にも取り組んでいます。全サプライヤーに「サプライヤー行動規範」を送付し、経営者のコミットメントをいただき、FAIの理念や社会課題を共有しています。

リスクマネジメント

グローバルなリスクの一元化

2013年度はグループ内で緊急事態が発生した際の対応体制の整備・ルール化に取り組み、2014年4月、社内関連規程を改訂しました。

今回整備した体制は、リスクマネジメント担当役員が緊急・重大な事態（自然災害、労働争議等）の発生時に情報をいち早く把握できる仕組みを整え、かつ適切な陣容での対策本部立上げを確保するものです。対策本部は、緊急事態下の現場との連絡体制を確保するとともに、グループを挙げた対応策の検討・策定を主導します。

キーになるのは各部署・グループ各社



担当役員
コメント

当社グループはコーポレート・ガバナンスの強化を経営上の重要な課題の一つと考え取り組んでいます。2013年度はグローバル経営推進の加速として、「不二製油グループ贈収賄防止基本方針」の策定をはじめとするグローバルでのコンプライアンス強化やリスク一元管理の推進に努めました。2014年度は「ルネサンス不二2016」を遂行すべく、さらなる基盤強化とリスク管理の徹底によるグローバルガバナンス体制の整備を行ってまいります。

取締役常務執行役員 グローバル戦略本部長 久野 貢

からの迅速な通報ですが、専用の電話番号・メールアドレス（休日・夜間も稼働）を設置し、国内外グループ会社へ周知しました。

2014年度は、当社グループで一元化や体制の整備・ルール化などを進め、リスクに強い企業グループとしてステークホルダーからの信頼を得る取り組みを推進します。

地域社会との共生

フィリピンにおける台風30号被害に対する支援

2013年11月フィリピンを襲った台風30号により、当社グループのニュー

レイテ エディブル オイル (NLM) も多大な被害を受けました。地域貢献の一環として会社および従業員寄付金、多方面のご厚意を含む計約1,000万円を被災地へ寄付しました。

支援金は、地元と協議し、タナワンのサンロケ (NLMがある街) にて、保育所併設の公民館への修繕および改築費に使用されることとなりました。この施設は緊急時の避難所としても使用される予定です。



公民館 完成イメージ図

泉佐野食品コンビナート協会主催「FESTA2013」に参画

当社では地域貢献活動の一環として、本社のある泉佐野市の食品コンビナート協会主催イベント「FESTA2013」に参加しました。工場のバスツアー、カカオ豆やパーム油などの原料展示のほか、チョコレートができるまでの説明を行うなど、地域住民の方々に当社の理解を深めていただくことができました。



「FESTA2013」の様子

社外取締役メッセージ

社外取締役に就任して1年が過ぎました。私が関わったのを機に、新年度から取締役会の議題に変化が生じています。従来は部門ごとの業務報告に時間を割いていましたが、いまは月ごとにテーマを定め、議論をするようになっています。例えば、不二製油のグローバル化や、それに伴う人材育成のあり方などが、テーマの一例です。それまで報告を聴くだけだった方々が、自分の視点をもって意見の交換に参加するようになり、静かな改革が始まったと私は高く評価しています。

社長、会長とは定期的に歓談する場を与えていただいており、インフォーマルなコミュニケーションの積み重ねが新しい中期経営計画「ルネサンス不二 2016」にも反映されました。これまで不二製油が築き上げてきた技術の体系は、もっともっと世界の人々に評価していただく余地があるはずと私は確信しており、余地を領地に変え、その成果を業績に織り込んでいくた

めには、多様性に富む海外市場にアプローチする方法を変えるべきと見ています。小手先の徒労を排除するには、まず社内体制を再整備して条件を整えるところから始めないとはいませんが、ここでも静かな改革が口火を切りました。

社外に籍を置く私にできることなど高々知れていますが、幸いなことに、不二製油は創業の精神にも、実直で有能な社員にも恵まれています。高いポテンシャルを解放する鍵を、2年目も見据えていきたいと思っています。



神戸大学大学院
経営学研究科 教授
三品 和広

第三者意見

考え抜かれた経営像を

今年度はCSRレポートからサステナビリティレポートへの模様替えがあった。社長インタビューの直後に新中期経営計画「ルネサンス不二 2016」の紹介があり、それが本レポートの核となっていることが分かる。

清水社長の言葉によると、前計画で目標とした基本方針「グローバル経営」「技術経営」「サステナブル経営」の3本柱は思い描いたように実現できたわけではなかったようだ。この3本柱は今後も継続されるが計画のあり方を大きく変え、将来像を「あるべき姿」「ありたい姿」として示し、そこに向かう方法を考えるというものになっている。

同じ社長インタビューから世界人口増加による食料問題の解決に大豆を使った食品を広めることが大きく貢献することが分かる。また不二製油の分離技術がその実現に重要な役割を演じることも分かる。技術経営では常に差別化された技術と顧客の立場に立った技術を開発することが意識されている。こうした視点は大切だ。ただ、サステナブル経営については「当社の事業そのものがサステナブルな要素が強い」と述べられるにとどまっている。紙幅の関係からだろうが残念だ。

全体に目を通し今回の報告書を評価すると次のようになる。一言でいえば、及第点にはいま一歩といったところだろうか。

第一に昨年度のCSRレポートでは、事業分野の説明で分かりやすいイラストを駆使し、読者目線での工夫が見られた。それが無くなっており残念だ。

第二に、グローバル、技術、サステナブルの3経営要素の中身についてもっと説明してほしい。不二製油の経営の本質について絶えず突き詰めて考え抜いているなら、それが報告書の記述に出るはずだ。社外取締役三品教授のメッセージによれば、役員が月ごとにテ-

マを定め、議論するようになったという。その成果が今後、報告書に反映されれば不満は解消されるかもしれない。

第三にサステナブル経営についての報告を統一感あるものにしてほしい。項目によっては詳細な報告があるが全体として読むと部分最適な経営になっているのではという疑念が消えない。役員のコメントは担当範囲に限った形でサステナブル経営を語っているようにも読める。統一的視点から全体最適を目指しているなら第三者に明確に伝える工夫があるはずだ。

その点で、昨年度の報告書は不二製油のCSR活動の課題と活動実績、自己評価などが一目で分かる表を作成していた。しかし、今年度はその表が姿を消している。昨年、この表に対しコメントし、今年度はどのような改善が見られるか強い関心をもっていた評者としては期待を裏切られる結果となってしまった。CSRについての報告としては大きな後退だと言えるだろう。

最後に、不二製油グループはサステナビリティ経営を環境に迫られ受動的に実践しているのか、他業界や世界に先駆け能動的に行っているのか。一目で分かるデータがあれば報告書の出来はさらによくなるだろう。

神戸大学大学院
経営学研究科 教授

小川 進氏

1989年神戸大学大学院経営学研究科博士課程前期修了。1998年経営学博士(マサチューセッツ工科大学)取得、2000年商学博士を取得し、2003年より現職。マーケティング、イノベーション管理、ビジネスシステム論を専攻。近著『ユーザーイノベーション:消費者から始まるものづくりの未来』(東洋経済新報社)。



第三者意見を受けて

昨年に引き続き非常に身の引き締まるご意見を頂戴し、誠にありがとうございます。今年は新中期経営計画策定の初年度であり、基本方針の一つ「サステナブル経営」を推進・加速することがCSR推進のあるべき姿とし、4つの軸(社会的価値の創出、環境、サステナブル調達、人づくり)をマテリアリティ(重点課題)と位置づけ、2014年度活動内容につき報告しています。小川教授からのご意見にもございました、事業分野のイラスト、CSR課題一覧表および各種データは本年よりWEBへ移行しますが、重点課題を中心とした進捗報告とすべく取り組んでまいり所存です。貴重なご意見を真摯に受け止め、進化し続けることでサステナブルな社会との共生を図ってまいります。

経営企画部 CSRグループ

編集方針

本報告は、不二製油グループがサステナブル社会の実現に向けて取り組んでいる内容についてご理解をいただくとともに、ステークホルダーの皆様の忌憚のないご意見を賜り、活動の更なる進展を図ることを目的としています。冊子は、特に重要性の高い活動について報告しています。項目ごとの文字数もできるだけ少なくし、要点を報告することで分かりやすさを優先する編集としました。一方、Webサイトは網羅性を加味し、広範なステークホルダーの皆様への説明責任を果たすように構成しています。

「サステナビリティレポート2014」について

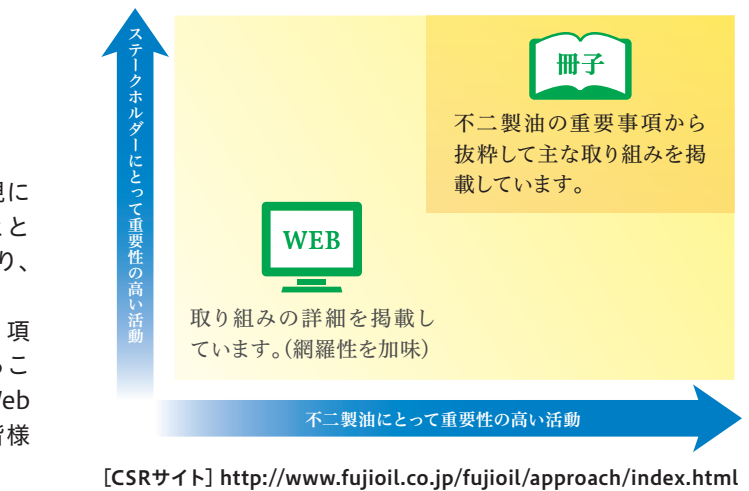
■「サステナビリティレポート 2014」では、2014年度をスタート年とする「新中期経営計画(2014～2016)」の概要を掲載しています。その基本方針は「グローバル経営の推進・加速」、「技術経営の推進・加速」、「サステナブル経営の推進・加速」の3つです。本報告では、このうち「社会的価値の創出」、「環境」、「サステナブル調達」、「人づくり」の4つを柱とする「サステナブル経営の推進・加速」についてレポートしています。

■このことを踏まえ、従来「CSRレポート」としてきた報告書の名称を、2014年度版から「サステナビリティレポート」と改称しました。今後は、活動の進捗を報告するレポートとして毎年発行いたします。2014年度版は、2013年度の活動報告であると同時に、今後の報告の端緒としての役割も担っています。

■冊子のページ数は2013年度版より少なくなりましたが、これは、「サステナブル経営」の考え方と活動概要を的確にご理解いただくため、重要性の高い活動についての開示に絞り込んだことによるものです。

不二製油グループ紹介ツールについて

当社グループを紹介する主なツールには、サステナビリティレポート、グループ案内、製品案内があります。表紙デザインは、統一感がありながらそれぞれの特徴がひと目で分かるものとしています。



報告対象範囲等

事業所の対象範囲

不二製油(株)単体の活動を中心に掲載しています。環境データについては、国内グループ会社(生産拠点)のトーラク(株)、フジフレッシュフーズ(株)、(株)エフアンドエフ、オーム乳業(株)を含みます。上記以外を対象とするときは、データとともに集計範囲を記載しています。

対象期間

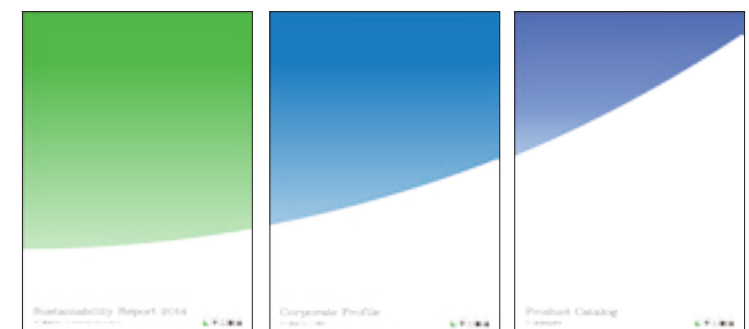
2013年度(2013年4月1日～2014年3月31日)の実績です。活動や取り組み内容は、一部に過去および直近のものも含みます。

発行時期

発行日:2014年9月
次回発行予定:2015年9月

参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」
GRI(Global Reporting Initiative)「サステナビリティリポーティングガイドライン第3.1版」

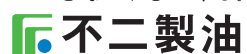


サステナビリティレポート2014
2014年9月発行

不二製油 グループ案内
2014年10月発行

不二製油 製品案内
2014年11月発行(予定)

二つとない、をつくる。



お問い合わせ先

不二製油株式会社
グローバル戦略本部 経営企画部 CSRグループ
〒530-0005 大阪市北区中之島3丁目6番32号 ダイビル本館
TEL / 06-6459-0702 FAX / 06-6459-0711
e-mail / csr@so.fujioil.co.jp



不二製油は国連グローバルコンパクトに署名しています。



この印刷物は環境に考慮し、ベジタブルインキ・水なしオフセット印刷で制作しています。